

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0590100400		
法人名	有限会社 ライフ・ワーク		
事業所名	グループホーム 音符		
所在地	秋田市土崎港北 1丁目 13- 43		
自己評価作成日	平成 23年 6月 28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成23年7月27日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

生活する音がする事業所。笑い声、お話し声、台所の音などの中で安心と安らぎを提供できる場所作りをめざしています。そして、できるだけ自分で出来る事は続けていく自立支援を柱に、スタッフと一緒に生活を続けていけるように努力しています。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

開所1年の事業所である。事業所理念のもと、前向きにレベルアップを図っている。管理者は職員の意見を聞き、運営に反映させる等、風通しの良い職場環境を作っている。職員には、根本的に介護の精神が根づいており、職員間で切磋琢磨し、利用者が地域と繋がりながら暮らしている取り組みを工夫しながら行なっている。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 :18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目 :11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 :49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔を大切にする」ために家庭的な雰囲気作り。入居者の現状に寄り添うケアをおこなっています。	事業所理念に「家庭的な雰囲気づくりと自立支援」を掲げて、サービス提供の拠り所としている。新任職員にも意識づけを図り、現任職員とも日々、実践に? げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内からの地域の行事などの情報を得ています。散歩時の挨拶は常に心がけています。	公報から町内会の情報を得ている。7月には地域行事の「土崎港曳山祭り」を隣接の同法人事業所の利用者と一緒に楽しみ、交流している。散歩に出かける時には、挨拶を交わす等、地域との繋がりを大切に、交流を図っている。	開所1年で日常の挨拶から始め、地域との交流を図っているが、更に積極的に地域との繋がりを持つために、事業所からの情報を発信していくことが期待される。
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて町内会長をはじめとした町内の委員の方々に理解していき、気兼ねなく立ち寄って欲しいことを伝えていきます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催において、意見や情報の交換が行われています。	会議には、民生委員、町内会長、老人会会長、地域包括支援センター、利用者、家族等が参加し、2ヶ月毎に開催している。意見交換も活発であり、利用者の参加も積極的である。今後、自己評価等の結果を報告し、地域住民の協力体制作り等、課題解決に結びつけていくことにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方には、相談指導を頂いています。	市町村とは、東日本大震災の際に状況確認の連絡が入ったり、事業者から市町村に出向いたり、問題解決に向け一緒に取り組んでいる。また、生活保護受給への相談等、担当者の協力を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、スタッフの理解を深めています。	事業所は身体拘束はしない支援を目標としている。玄関には、日中、施錠をせず、見守っている。二階が高齢者専用賃貸住宅となっており、非常口に防犯カメラを設置し、警備会社と連携を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、スタッフの理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が研修に参加し、資料を閲覧できる状況にあります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に説明し、同意を得ています。家族に1部を渡しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。日々の生活の中で、話しやすい環境や信頼関係を大事にしています。ご家族の面会時に伺うこともあります。	意見箱の設置の他、面会時に家族等から意見や要望を出してもらおう配慮している。また、アンケートを実施し、利用者の思いは家族等を介して把握し、結果をまとめ、改善に向け取り組んでいる。	利用者、家族等へのアンケートを継続して実施しているが、その結果を全職員で話し合い、改善に向けたプロセスの記録を整備していくことが期待される。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全員出席によるミーティングを開催しています。	職員は、1日3回の打ち合わせ、月1回のミーティング・ケアカンファレンスで忌憚なく活発に意見を出し合っている。管理者は職員の意見を吸い上げ実践に？げ、風通しのよい職場づくりに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	交付金の申請における支給、研修参加の充実に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の充実に努め、資格取得のバックアップなど向上心を育てる環境作りをしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の加入を検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問面談や見学・体験などの時間を経てご本人とご家族の納得、理解を得ています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を含め、何度も会い時間をかけて理解していただく機会を作っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の自立支援しながら、一緒に楽しむ機会を作ったり、人生の先輩としての知恵などを教えていただく環境を作っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中にもご家族の話題を出し、ご家族と本人の絆を大切にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	面会時など居室や談話室でゆっくりとお茶を飲みながらの会話を大切にしています。	本人が培ってきた家族や社会との関係が途切れないよう配慮、支援している。家族や知人の面会等がある他、いきつけの理容院、美容院、病院の利用を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで軽作業やカラオケなどをお手伝いしたり笑いながら行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はまだおりませんが、今後の対応を検討します。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	⑨	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや訴えに十分に耳を傾け、スタッフ同士検討し、沿える様に努力しています。	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、困難な場合は利用者本位に考えている。特に、職員と利用者が1対1の場面で思いや意向を汲み取り、全職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談や情報をスタッフ全員で共有しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴、暮らしの情報をスタッフで共有し、検討しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスに基づき、検討・見直しを行っています。	利用者や家族等の要望や状態の変化に応じ、利用者全員のケアカンファレンスを行ない、6か月ごとに見直し、現状に即した介護計画をチームで作成し、共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りの徹底を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴を把握・共有し、日々の話題にしています。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関の受診に対応しています。相談できるかかりつけの薬局があります。	希望のかかりつけ医療機関への受診を、家族の協力を得ながら支援している。遠方の場合は、本人に合わせ、変更している。受診結果、薬の処方変更や副作用等を、家族と職員で共有している。かかりつけ薬局とは日々、相談できる関係を築いている。	適切な医療を受けられるように支援しているが、更に、急変時の対応等の研修に取り組み、サービスの提供に？ げていくことが期待される。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の変化等報告し、指導・相談できる体制にあります。		
		利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が対応にあたることとしております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針作成のもと、今後の課題と考えています。	事業所は、医療連携体制の要件として「入居者が重度化した場合の対応」看取りに関する指針を作成している。事例が出た場合、本人・家族等と話し合い、他の関係機関と連携を図り、対応の検討に結びつけていくことにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修を行っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いによる避難訓練の実施。緊急マニュアルの掲示。	避難訓練は年2回、実施している。5月には消防署と連携を図り、実施したことが確認できた。災害時の緊急マニュアルの整備、非常食の備蓄、スプリンクラーの設置等、非常時に備えている。	職員だけでの誘導の限界を踏まえて、地域住民の協力が得られるよう、協力体制の構築が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングでの勉強会を行い、スタッフの理解を深めています。	誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。特に、排泄支援や入浴支援等の場面で配慮している。職員同志、互いに注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を汲み取り、自己決定の支援に心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごせるように、環境作りに努力しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	床屋・美容院は2ヶ月に一度行っています。特に女性の着替え時の洋服等、ご本人の希望を聞きながらすすめています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシのひげとり、煮干しの頭とり、お茶のバック詰めなど手伝ってもらっています。食器拭きなど自主的に手伝ってもらっています。	献立は職員が作成し、食材は週に2回購入している。旬の物や好みの食材を取り入れ、献立を適宜変更することもある。飯椀、汁椀、箸等の食器は自分で使用していたものを使い、盛り付けは、目からも楽しめるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック。栄養士による献立表の指導・アドバイス。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表による、排泄パターンの把握。定期的な誘導等を行っています。	立位困難な為、オムツを使用している方や、希望により、夜間のみポータブルトイレを使用している方がいる。職員は排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中、夜間共可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や排便パターンチェック。主治医への相談など行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や受診の前など随時対応しています。	入浴は日曜日以外利用可能である。平均して週3回の入浴となっており、身体状況からシャワー浴や足浴で対応している方もいる。入浴の際には、羞恥心等への配慮をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、午睡されています。疲れたときなど居室に戻られ横になられています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録のファイルに綴っており、スタッフが情報を共有し、服薬の変更時の申し送りを徹底しております。薬はホームの鍵付きのキャビネットにて保管・管理しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフがご本人の楽しみや趣味を把握し、コミュニケーションを取り入れながら行っています。将棋・カラオケなど		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	お天気の良い日など散歩に出掛けます。ご家族が病院受診をされている入居者もおります。	事業所周辺の散策や買い物等、本人の希望を可能な限り取り入れている。また、3日間にわたり、近隣の桜並木の花見に出かける等、外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理はホームで管理しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり 手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙はその都度対応しております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように心がけ、換気も入居者の状態をみながら行っています。季節のお花を持ってきてくださるご家族がおります。	利用者一人ひとりの趣味の把握に努め、ホール内で楽しめるよう配慮している他、ゆっくり休めるようにソファを設置している。家族が持参した季節の花を飾り、季節の移り変わりを感じている。また、屋外に菜園をつくれるスペースがあり、今後の楽しみとしている。トイレは3か所あり、スペースもゆとりしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり 気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファや食卓のいすに座ったり、定位置は無く過ごしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と話し合いながら、なじみのものを持ってきて頂くなど居心地のよい部屋作りの工夫をしています。	各居室にはベッド、収納棚が設置されているが、本人の希望を聞きながら使い慣れた家具や自分で作った文化刺繍等の思い出の品々を持ち込んでもらう等、住み慣れた環境を醸し出している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが一人一人の情報を共有し、入居者の行動には目配り・気配りを忘れず、安全な環境で生活出来るようにしています。		